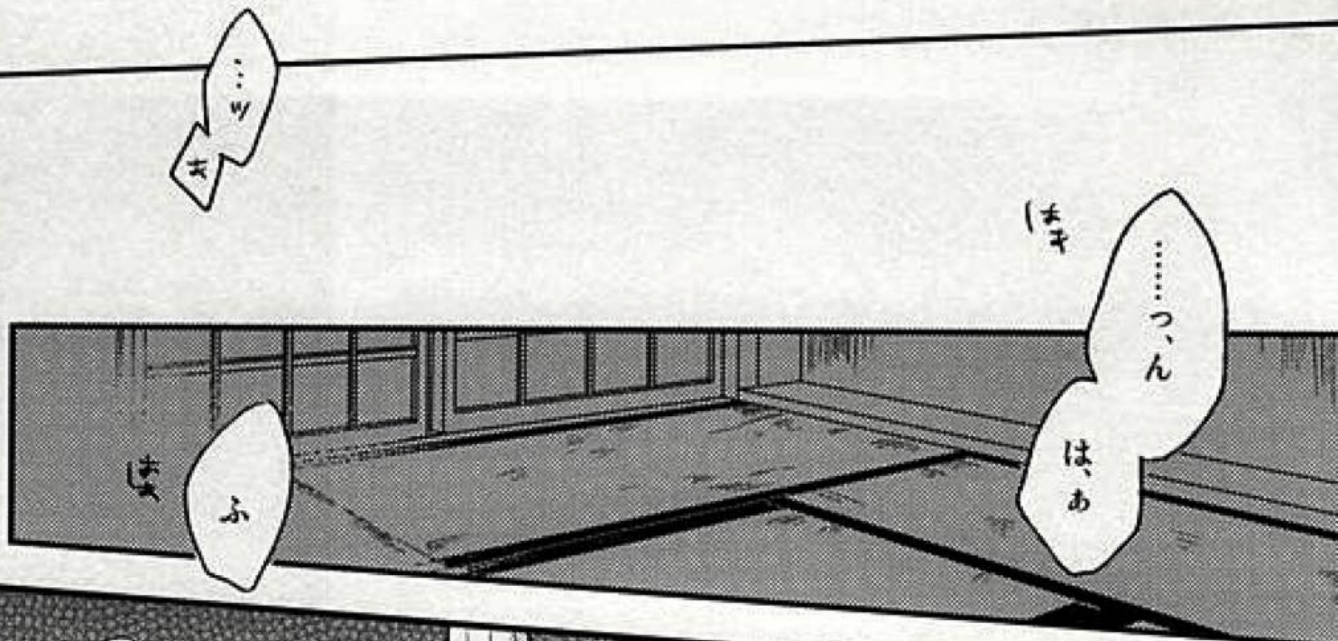


toukenranbu fanbook #06
shokudakiri*heshikiri
presented by lasunofuchise
2019.10.04



つ
な
な
い
わ
手
る

DOJIN
R18





……ん？

……お、お

……お前
これ、外さないのか

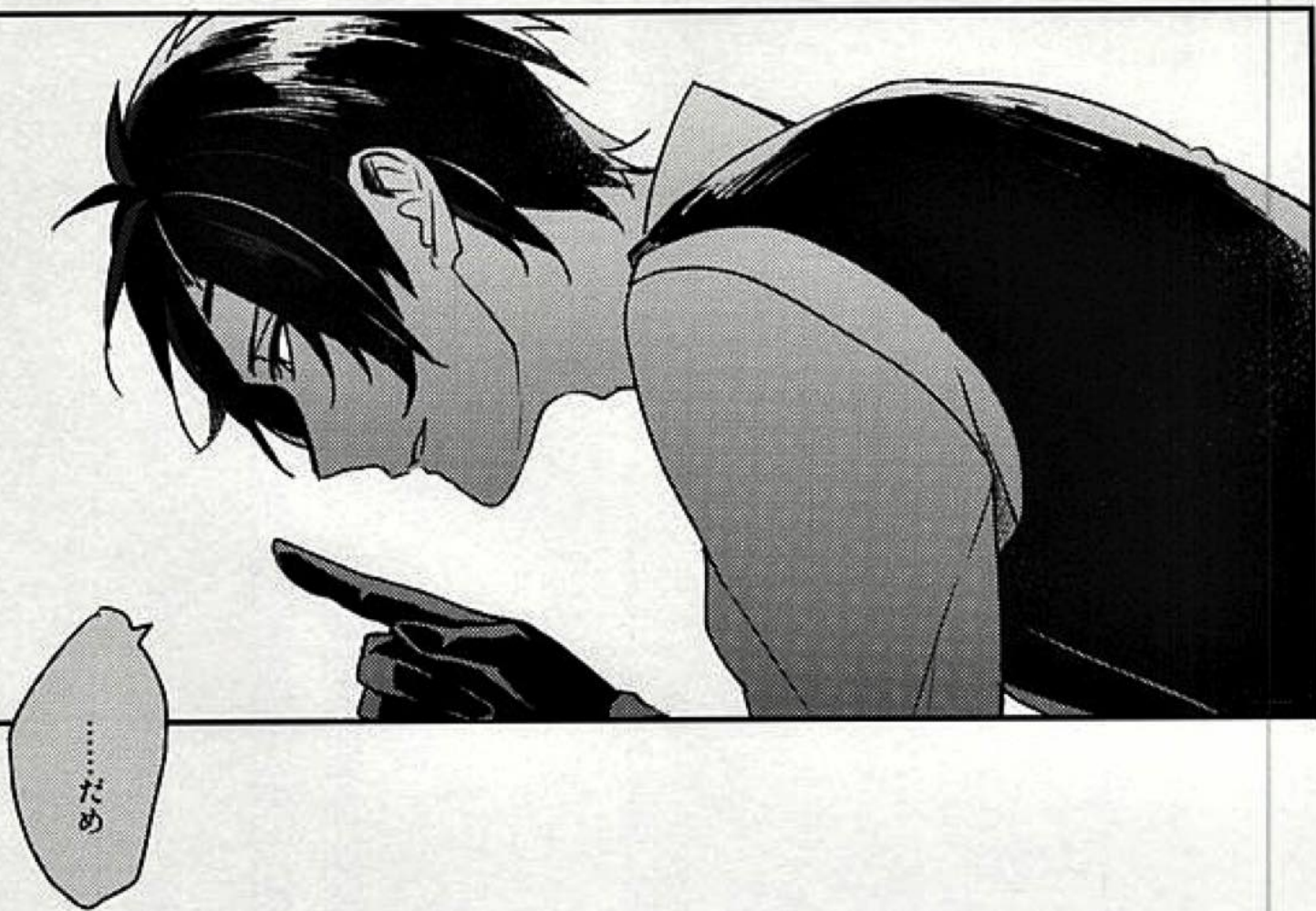
なに？

なんだい
いきなり…

いつも
したままだろ

……取らないわ





つたわらない手



長谷部くん
気になるのかな



本体が焼けたから――

あまり気に
したことはないし

まあ黒くて格好良いん
だないかなって思うけど



これは



なんて
ことはない



長谷部くん
大丈夫？



途中で調子が
悪そうだったけど



滑り血で
帰るんだ

たらいせな

ああ……



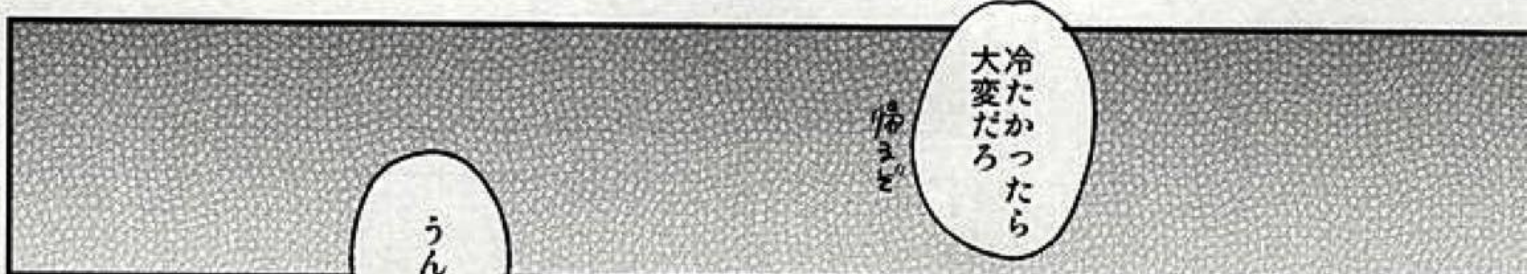


—燭台切!





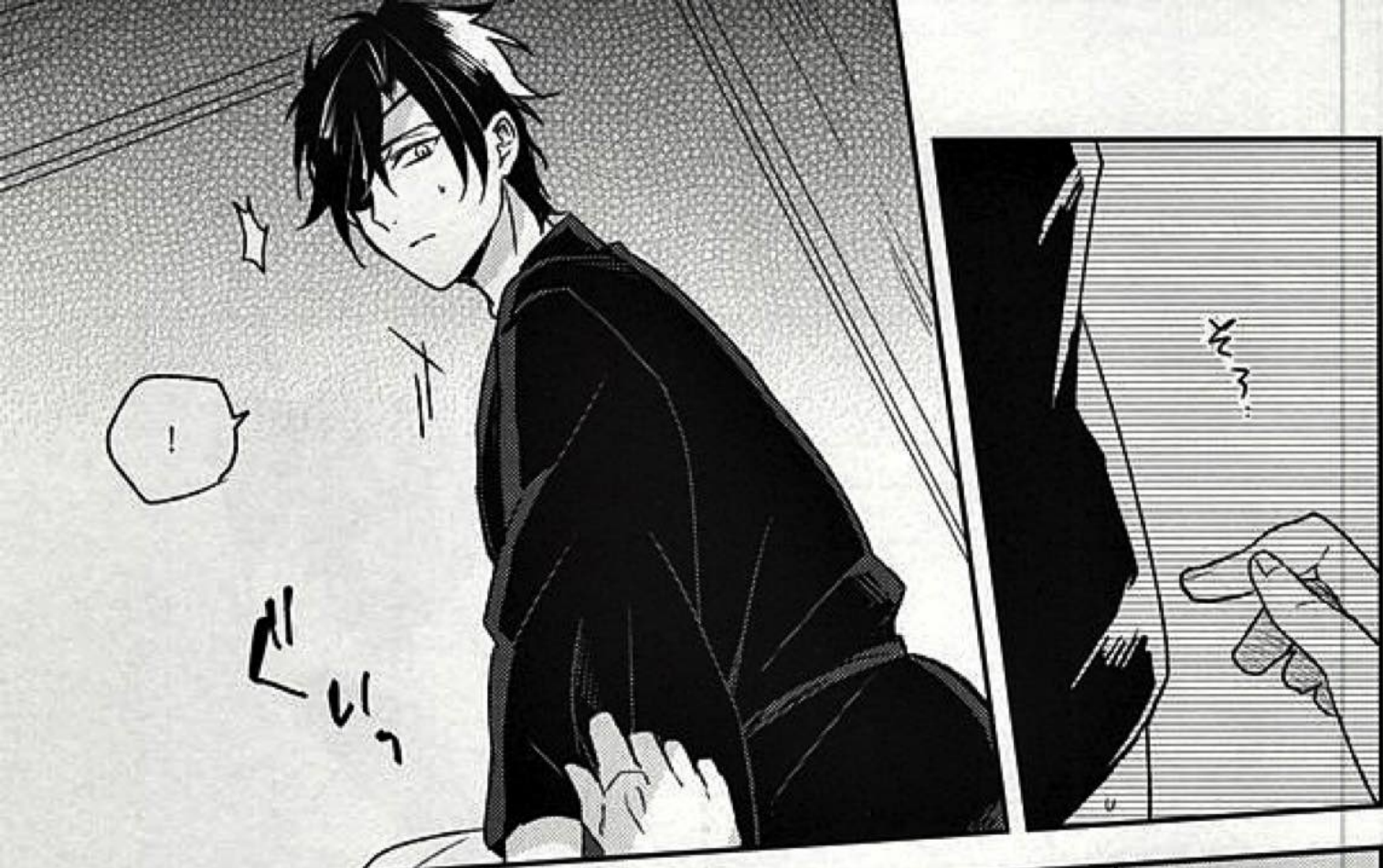






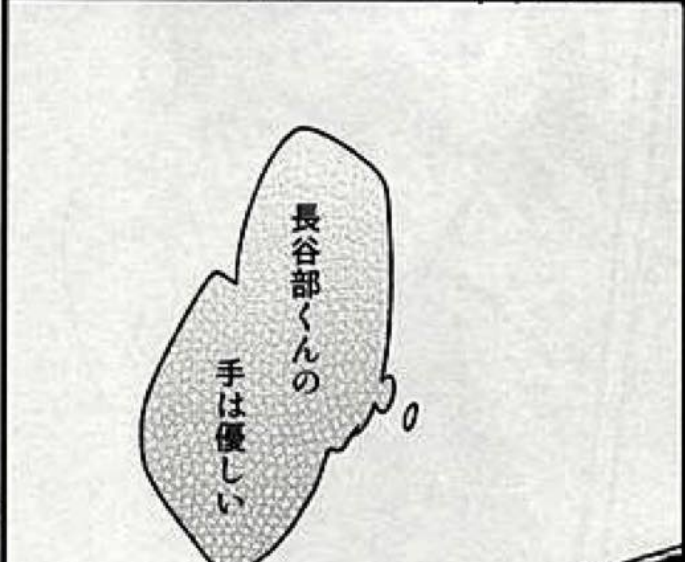
なんで





ちよ、ちよっと
長谷部くん…？

うるさい
大人しくしろ



僕も
そんな風に



長谷部くんに
触れられたらいいのに

なんで









ごめん



悪いことしたな
心配してくれてたのに

...



僕だって本当は
ちゃんと触れたい

君には
触れてほしくない



だけど
どうしても
駄目なんだ

ただそれだけのことが
出来ないなんて



触ってみたい
撫でてみたい



………僕が



もしも

もしもこの手が
綺麗なままだったら



もっと君に優しく
触れられたんだろうか

もしも



もしも僕が――



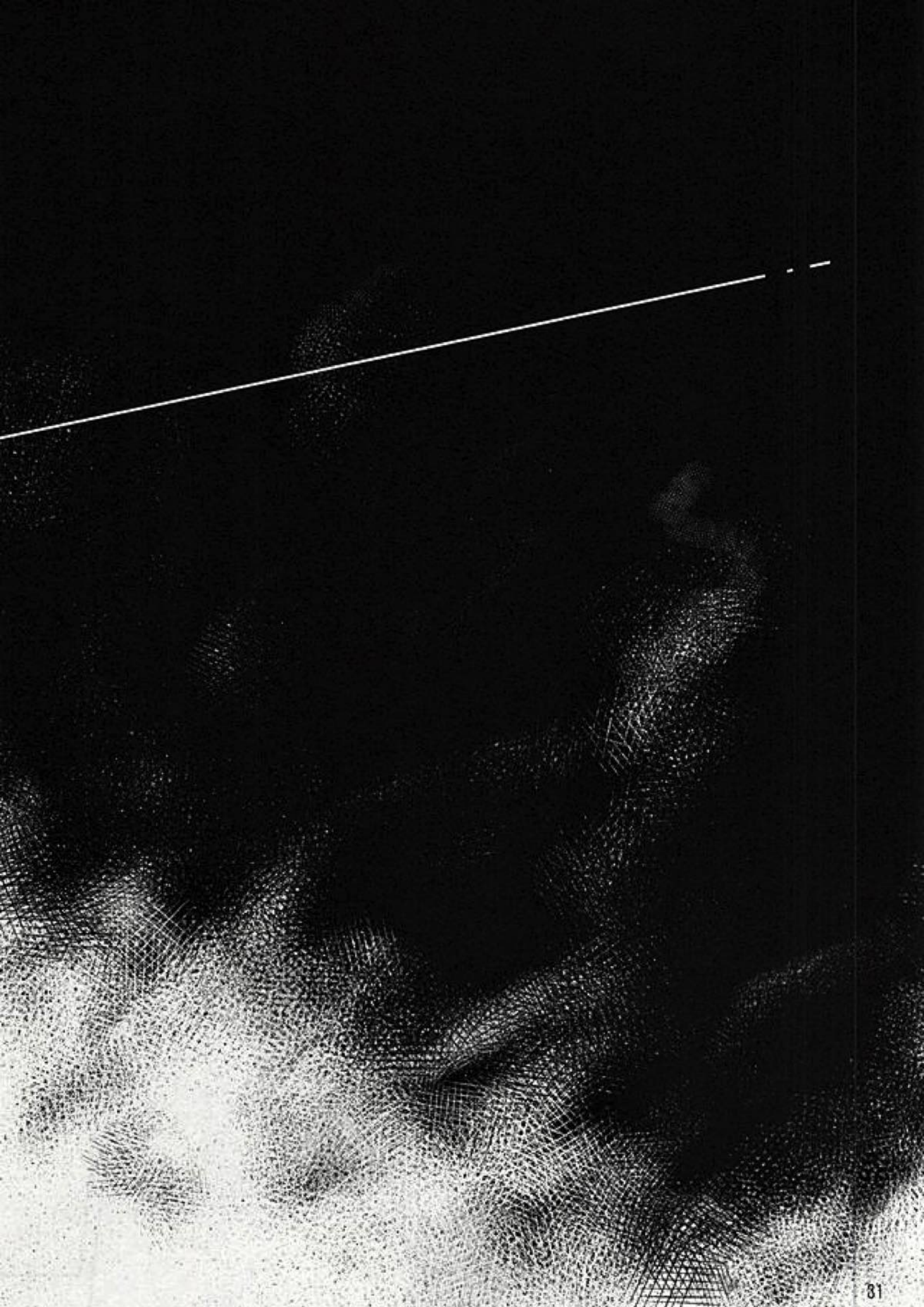
今の僕には
自分で動ける
身体がある

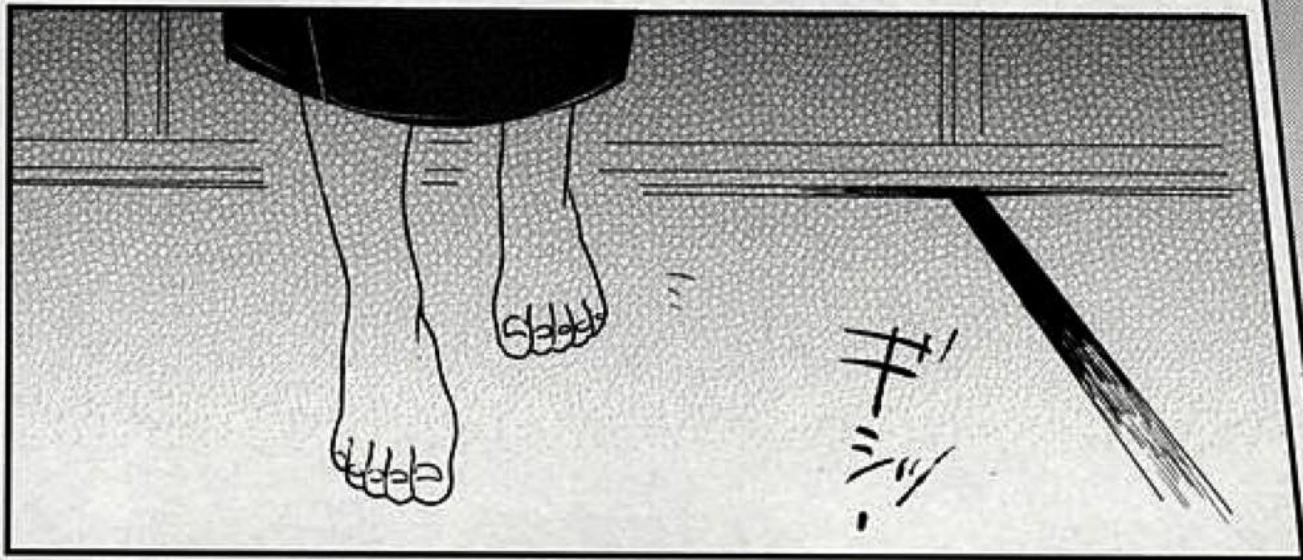
手段だってある

…なんだ



なんだって出来る
じゃないか







したいことが
あってね



どこいってたんだ…
眠れないのか？

うーん……
ちよつと野暮用を
済ませてきた



?

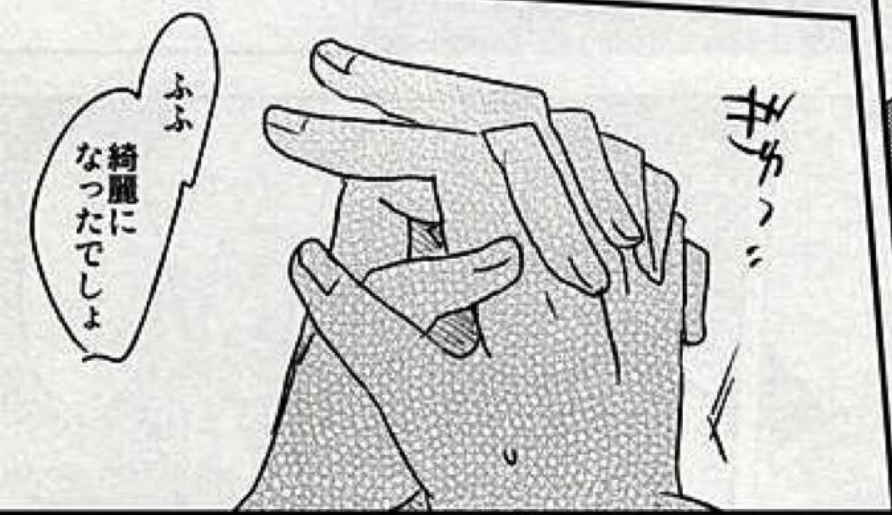
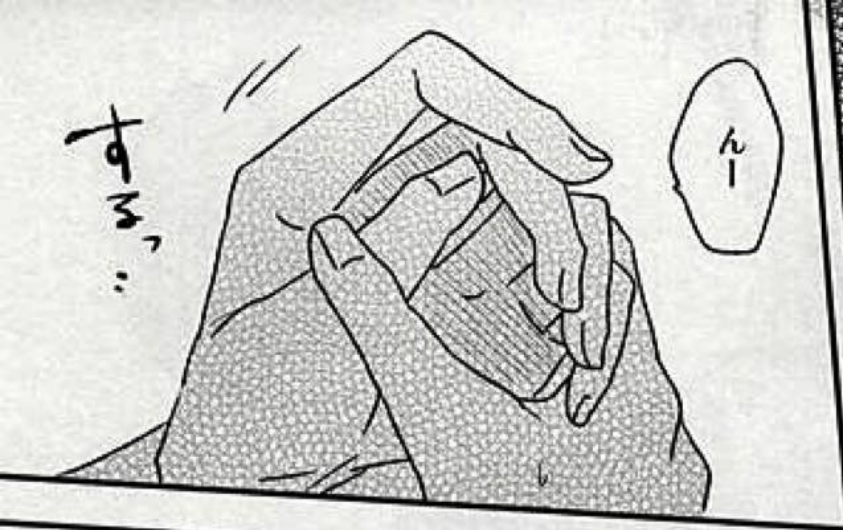
そうか



……?

はは
長谷部くん
よだれ出てる









……っ



それでもいいよ

僕の望みはもう叶ったしね



そうかな?
なかなか
そそると思うけど

お前、
ふざけるなよ



ああ
やっぱり直接
触れるのはいい

すっ



僕はね

こんな風に、
ちやんと触れて
みたかったんだ



…？

ね、長谷部くん



できたらいいって
ずっと思ってた



触れて
体温を分けたり

優しく
撫でてたり

フワッ



…そういうのが



君みたいなの、
優しい手で



大事なことだ



ふっ
そんなこと?
...違うよ



そんなことで



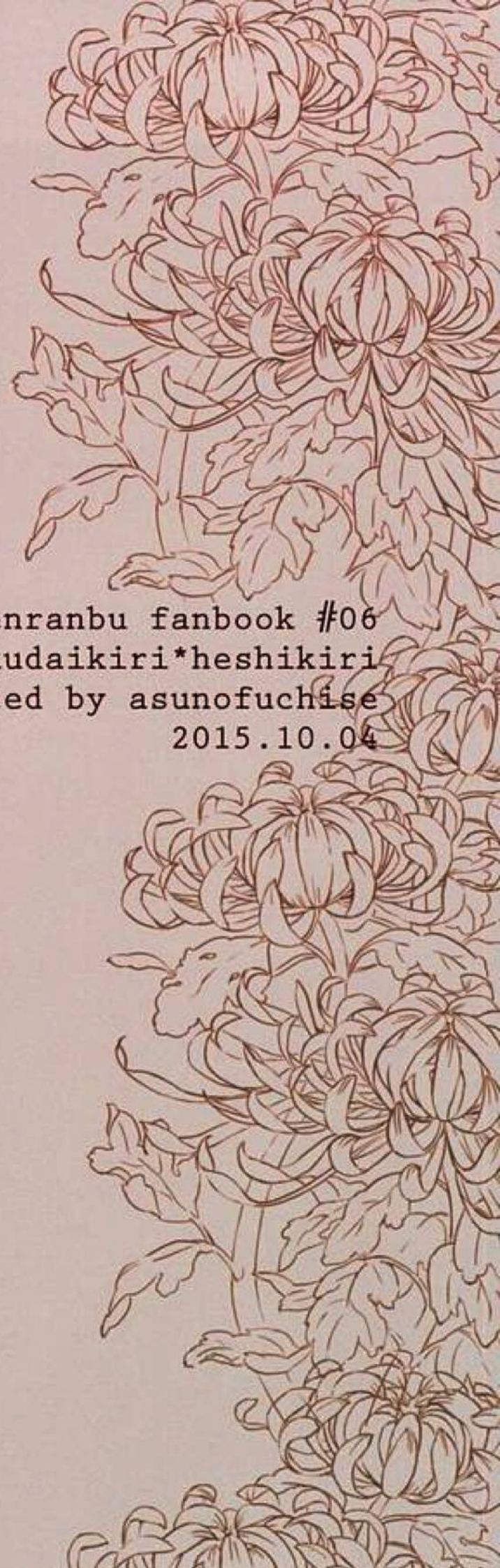


ふっ
おかしいな
なんで
泣くん
だ

君にちゃんと
触れることができ
僕は嬉しいんだよ



それってすごく
幸せなことじゃないか



toukenranbu fanbook #06
shokudaikiri*heshikiri
presented by asunofuchise
2015.10.04